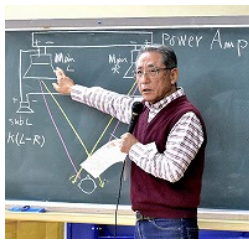


AAF C例会資料



ナチュラル・サウンド復元法の紹介と実演

10年程前偶々インターネットで見つけた「ナチュラル・サウンド復元法」なる記事に興味を持ち、自宅システムにて試してみたところ好結果を得たので以降愛用している。

ナチュラル・サウンドとは、コンサートホールやライブハウスで生演奏を聴いているかのような自然な響です。

基本的な原理は、左右のスピーカーから出た音が両耳に届くまでに発生するクロストロークを解消することです。

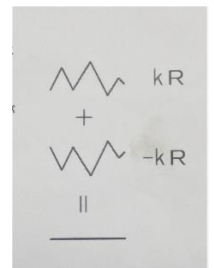
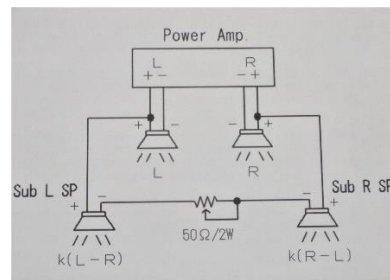
(右スピーカーから出ている音は、右マイクで録音された音すなわち聴衆席にいる人の右耳で聴いている音に相当しますが、リスナーには右耳と同時に左耳にも音が届き、クロストロークが生じています。)

今回は、サブスピーカーに DIATONE P-610DB (音圧92dB) を用い復元を試みます。

◆復元方法 (サブスピーカー法)

※1970年代に DYNACO 社の社長が発表したアイデアをアラバマ大学物理学高橋教授が改良した方法

このクロストロークの解消にサブスピーカーを用います。右のサブスピーカーから「k (R-L)」左のサブスピーカーから「k (L-R)」という信号が出ています。ポイントは「-k R」「-k L」という逆位相成分です。kを調整するのがVRです、この逆位相成分がクロストロークとして左右の耳に届く k R, k L を打ち消してくれます。



◆演奏曲

1、モーツァルト 交響曲 第39番 変ホ長調 K.543 harmonia mundi KUX-3139-H



【演奏】コレギウム・アウレウム合奏団

(コンサートマスター/フランツヨーゼフ・マイヤー)

【録音】1977年6月

ドイツシュバーベン地方キルハイム・フッガー城 糸杉の間

第1楽章 Adagio~Allegro (10' 45" )

第2楽章 Andante con moto ( 8' 02" )

2、ドボルザーク 弦楽四重奏曲 第12番 へ長調 作品96 B179 《アメリカ》 DENON OW-7407-ND



【演奏】スメタナ四重奏団

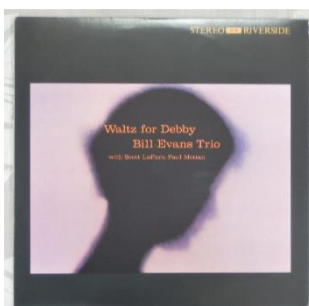
【録音】1980年9月30日

神戸文化ホール

第1楽章 Allegro ma non troppo (7' 09" )

第2楽章 Morutop biba-che (8' 09" )

3、ビル・エヴァンス Waltz for Debby RIVERSIGE OJT-210(RLP-9399)



【演奏】ビル・エヴァンス トリオ BILL EVANS ; piano

SCOTT LaFARO ; bass

PAUL MOTIAN ; drums

【録音】1961年6月25日

Village Vanguard ; New York

Waltz for Debby (Bill Evans) (6' 54" )